



問

東海駅西口広場等の整備状況について

駅前広場の環状交差点導入は取りやめる

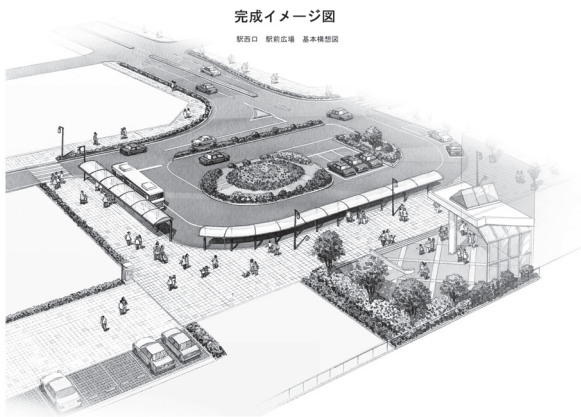
新国会 舛井 文夫 議員

議員 昨年12月議会で提案した多賀駅前環状交差点（ラウンドアバウト）についてはどのように検討したのか伺う。

建設農政部長 西口の駅前広場については、新レイアウトの基本計画を

今年の2月12日の駅西土地画整理審議会に報告したところである。また環状交差点について検討したが、まず標準外径27mの環状交差点を設置した場合、公共交通の発着場所や送迎車の停車スペース等が確保できない。さらに交通量調査の結果、歩行者等の横断歩道を渡る人数が基準を超えた場合、車の渋滞を招く可能性があり、環状交差点の大きな利点である安全かつ円滑な道路交通の安全確保ができないことが分かった。駅前広場と環状交差点の双方の機能

確保は困難と判断し、環状交差点の導入を取りやめることとした。また駅前広場の現在の状況だが、残っている1軒の移転については、いまだ難航しているが、継続的に交渉を進めていく。



完成イメージ図
駅西口 駅前広場 基本構想図
東海駅西口広場イメージ図



問

土地利用のルールづくりはどうなったか

理論武装をしたうえで何らかの形は出す

無会派 相沢 一正 議員

議員 村の農地や緑地の減少を危惧し、無秩序な都市化を抑えるための土地利用に関するルールづくりを村長は提唱した。副村長の時からの懸案で村長になった以上強い意思で臨み、26年度中に何らかの案を示す、と語った。どうなったか。

村長 答えづらい。強い思いで臨み、26年度の事業計画を立て、住民の意識調査をした。アンケートを農家900戸に出して160戸（18%）、消費者1500戸に出して700戸（48%）を回収した。この結果を基に、住民との協働検討会議を開く予定だったが進んでいない。農家は将来農地を維持していけない、一般の消費者は農業は大事と総論では分かっているし、村が税金を投入することにも理解はしている。ルールを

作って意見を聞くといつても、村が農業をどうしていくのか、受け皿がないところでは意見も出しにくいと分かった。事業は休止扱いとし、アプローチの仕方を考え直して何らかの形は出していく。

第1は、「真に豊かなまちづくりの実現」であります。本村では、都市計画とは違った形で、市街化調整区域における農地が宅地に転用されるなど都市化が進行しております。一方で、農業分野におきましては、後継者不足や耕作放棄地増加の問題、あるいは減反政策の転換やT P P交渉の行方など、厳しい状況が続いております。このような中で、農業振興や環境保全に配慮しながら、効果的な都市整備をバランス良く進めていかなければなりません。そのためには、土地利用について、村民の意思を反映したルールが必要であると考えております。平成26年度におきましては、村の土地利用に関する実態調査や協議の場を設置し、土地利用のルールを策定することを目的とした事業を実施してまいります。

（平成26年度村政施策等に関する村長説明要旨より）